

## 新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

### 発熱・せきなどがあれば、 かかりつけ医にまずは電話を

インフルエンザの流行に注意が必要な時期になりました。インフルエンザと新型コロナウイルス感染症は症状が似ていることから、検査をせずに見分けることは困難です。発熱・せきなどの症状があるときは、受診の前に、まずはかかりつけ医に電話などで相談してください。



#### ◎ かかりつけ医が不在のときは

年末年始などかかりつけ医が不在のときに、発熱やせきがあるなど新型コロナウイルスの感染が疑われる場合は「新型コロナウイルス専用健康相談窓口」へご相談ください。

☎322-6250 ⑤391-5532(24時間土日祝含む、多言語対応可)

### ▶ インフルエンザワクチンの接種はお済みですか

インフルエンザは例年、12月頃から流行が始まり、1～3月に流行のピークを迎えます。ワクチンの効果が期待できるのは接種後2週間から5カ月間程度ですので、12月中旬までに接種することをおすすめします。接種を希望される際は、必ず事前に接種可能かどうかを医療機関にお問い合わせください。インフルエンザ予防接種の契約医療機関の一覧は市ホームページで。

神戸市 インフルエンザ予防接種 | 検索

#### 今年度は特にワクチンを接種して欲しい人がいます

新型コロナウイルス感染症の影響により、重症化リスクの高い人は優先的にインフルエンザワクチンを接種することが推奨されています。特に高齢者や基礎疾患のある人、小学2年生までの子ども、妊婦、医療従事者などリスクの高い人は、ワクチンを接種しましょう。

[問]市総合コールセンター(☎333-3330 ⑤333-3314)

### ▶ 新型コロナウイルス感染は、 特別なことですか？

市内でも、学校が同じというだけで知らない人からバスに乗ると言われたり、退院した後に家から出ると玄関に張り紙をされた事例などが発生しています。新型コロナウイルスは、誰もが感染する可能性があります。正しい知識に基づく冷静な行動をお願いします。



### ▶ こんな場面では感染に注意を!

国の新型コロナウイルス感染症対策分科会により、これまでのクラスター分析で得られた知見から、感染リスクが高まる「5つの場面」などが提言としてまとめられました。



#### 感染リスクが高まる「5つの場面」

##### 【場面 1】 飲酒を伴う懇親会など

- ・ 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- ・ 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- ・ 回し飲みや箸などの共用が感染のリスク。

##### 【場面 2】 大人数や長時間におよぶ飲食

- ・ 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- ・ 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



##### 【場面 3】 マスクなしでの会話

- ・ マスクなしに近距離で会話をする中で、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- ・ マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- ・ 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

##### 【場面 4】 狭い空間での共同生活

- ・ 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。
- ・ 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。



##### 【場面 5】 居場所の切り替わり

- ・ 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- ・ 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



詳細は [感染リスクが高まる5つの場面 | 検索](#)

